

実績報告書

届出者	住所	大阪府富田林市新堂2204	氏名	医療法人 宝生会 理事長 橋本 清保
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		PL病院 病床数370 診療科24科 PL病院東京診療所 (PL東京健康管理センター) 人間ドック 診療科7科		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2017年 4月 1日～ 2020年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,185 t-CO ₂	3,146 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,419 t-CO ₂	3,376 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	1.4 %	%
削減率 (平準化補正ベース)		3.0 %	1.4 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(在室延べ人数×延べ床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
在室延べ人数 (千人) × 延べ床面積 (ha:ヘクタール)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度中に建物工事や大規模な設備更新工事はありませんでした。以下に取り組み事項を示します。照明関係では電球の間引きや照明スイッチの自動センサー化を行い、空調関係ではエアコン室内機熱交換器の薬品洗浄や空調機の運転時間の見直しを行いました。また、夏季・冬季に省エネ推進委員会のメンバーによる省エネパトロールを行い換気装置(ベンチェール)の適切な使用方法を指導しました。

(2) 推進体制

省エネ法によるエネルギー統括管理者のもと、エネルギー企画推進者を委員長として、各部署代表者からなる省エネルギー推進委員会を毎月開催。省エネルギー・温暖化防止に向けての対策検討・立案・広報活動を継続して推進していきます。

実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市島3-12-25	氏名	株式会社北部市場運送 代表取締役 黒田 敬弘
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		低温の物流センターを設け、全国の量販店及び食品メーカー等を対象に生鮮食料品の運送や保管を専門とする物流業です。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2017 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	11,458 t-CO ₂	10,482 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,737 t-CO ₂	10,824 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	8.6 %	%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	7.8 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>社内での温室効果ガス削減の認識も浸透し、これまでよりも削減率が大幅に伸びた。今後も継続を心掛けていく。</p>
--

(2) 推進体制

定期的エコドライブの講習・研修等を通じて、温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制に努めております。

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田3丁目1-1 サウスゲートビルディング	氏名	株式会社ホテルグランヴィア大阪 代表取締役社長 河合 信夫
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル業、料理飲食業、食料品販売、両替業等		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2017年	4月	1日	～	2020年 3月 31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	5,397 t-CO ₂	5,348 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,785 t-CO ₂	5,706 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	1.0%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	1.4%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(延べ床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

空調機スケジュールの見直し(間引き運転)、照明器具LED化及び厨房機器に関しても、更新時に省エネ型の機器を導入し削減に繋げた。

(2) 推進体制

GOES（省エネルギー活動）にて四半期毎に検証し、上半期及び下期にて当社幹部へ報告を行いながら進捗状況等を確認し全社施策にて省エネルギー化に努めます。

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区谷町1丁目2番10号	氏名	株式会社 ホテル京阪 代表取締役社長 工藤 俊也
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、旅館業を営んでおり平成29年6月までは全国に8店舗を運営し、大阪府内では4店舗を運営していた、平成29年7月に新店舗を加えて、全国で9店舗・大阪府で5店舗の運営を行っている		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2017年 4月 1日～ 2020年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	10,770 t-CO ₂	12,161 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,503 t-CO ₂	12,960 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	1.5%	%
削減率(平準化補正ベース)		4.2%	1.8%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府内の宿泊施設の宿泊人員)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は、7月に新店舗が開業し温室効果ガス総排出量は12.7%増加となったが、宿泊人員も14.6%の増加となり結果原単位ベースの目標を達成できた。 ・既存店(4店舗)で見ると、宿泊人員増加施策により宿泊人員が5.7%増加するも、照明のLED化や環境マネジメントの取組により重油換算値で0.7%の削減が図れた。

(2) 推進体制

・全社的に温暖化対策に取り組んで環境マネジメントシステムを導入運用しており、全店で3か月に一度温暖化防止に関する報告会を実施する等しており、大阪府内においても計画的に5店舗にて環境マネジメントを積極的に運用することにより、体制を継続してまいります。

実績報告書

届出者		住所		大阪府大阪市北区南扇町7-31 ホンダ大阪ビル5F		氏名		株式会社ホンダカーズ大阪 代表取締役社長 柳川 明弘	
特定事業者の主たる業種				60 その他の小売業					
該当する特定事業者の要件				レ		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者			
						大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者			
事業の概要				自動車販売及び修理					

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
2017 年	4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	4,203 t-CO ₂	3,919 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,856 t-CO ₂	4,529 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019 年度)	第1年度 (2017 年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	6.8 %	%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.3 %	6.8 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

2017年度、店舗ショールームLED更新13ヶ所実施を行いました。

(2) 推進体制

エネルギー量の報告（毎月入力）を基に、前年度比で悪化している事業所には指導を行う

実績報告書

	届出者	住所 大阪府和泉市肥子町2-8-56	氏名	株式会社 ホンダ泉州販売 代表取締役 大塚 雅仁
特定事業者の主たる業種		59機械器具小売業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		・自動車及びその部品、用品、付属品の販売 ・自動車及びその部品の修理・再生並びに加工 ・自動車の賃貸業 ・中古自動車類及び同部品の売買 ・生命保険の募集に関する業務、損害保険代理業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2017年 4月 1日～ 2020年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	1,306 t-CO ₂	1,296 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,540 t-CO ₂	1,506 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (年度)	第3年度 (年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.0%	0.8%	%	%
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	2.3%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

販売商品が環境と大きく関わっていることを理解し、会社全体で環境保全に努めます。環境に配慮した商品を推進すると共に全ての領域において環境に対する意識を向上させて、全従業員でリサイクル、節電、アイドリングストップの徹底に取り組みます。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

環境に配慮した商品(低公害・低燃費車・ハイブリッド車)の販売及び点検整備の促進を図りました。事業活動の全ての領域で省エネルギー、省資源、リサイクル推進、廃棄物の削減に努め、全社員に環境保全意識を高める広報の実施をいたしました。

(2) 推進体制

建築物への日射遮蔽や、断熱化、自然通風等を利用し排熱の低温化を行います。

実績報告書

届出者	住所	大阪府高石市羽衣3丁目1-72	氏名	宗教法人ほんみち 代表役員 山口 治
特定事業者の主たる業種		94宗教		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		当法人は、天理教祖を通じて下された天啓録につき、教祖の後継者甘露台がこれを解明し体得せられた「ほんみち」の教義をひろめ、儀式行事を行い、信者を教化育成し、伝導所を包括し、その他この教派の目的を達成するための業務を行うことを目的とする。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2017年 4月 1日～ 2020年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2016)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,240 t-CO ₂	3,052 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,431 t-CO ₂	3,244 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2019年度)	第1年度 (2017年度)	第2年度 (2018年度)	第3年度 (2019年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.2%	5.9%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.7%	5.5%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(建物の延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

泉南支部では、各所の老朽化している照明設備を、高効率器具へ随時更新しました。
--

(2) 推進体制

エネルギー管理委員会を推進役として、全国のほんみち施設における省エネ活動と温暖化ガス排出抑制に取り組みます。
エネルギー管理委員会で既設建物の現状調査、把握と勤務者への周知に努め、現状建物の建築設備の運用変更、老朽化設備の更新、効率の改善を進めます。

電気の需要の平準化については、太陽光発電・風力発電・バイオマス発電の設置を検討し、再生可能エネルギーへの切り替えを随時、計画していきます。